
2024年度事業報告書



NIPPON
ROVER
MOOT
2024✦
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

<目次>

I 最重点施策	-----	
II 重点施策	-----	
III 成果目標	-----	6
IV 日本連盟が展開する施策、実施する事業	-----	6
V 各種会議の開催報告	-----	23
VI 参考(規程等改正一覧)	-----	32
VII ボーイスカウトエンタープライズ事業報告	-----	33

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

2024(令和6)年度 事業報告

5月1日に、永年ボーイスカウトに御貢献されてきた、奥島総長(前理事長)がご逝去されました。日本連盟としては、10月5日、奥島総長を偲び、お別れの会を行いました。

奥島総長のご遺志を継ぐべく、第3次中長期計画に基づき、単年度の事業計画を立案してきたわけですが、今年度は、その中長期計画の進行状況、方向性、より効果的に事業を推進するためどうするか、そして、これからどのように進んでいくか?再確認を実施しました。

また、第43回世界会議に代表団と若者を中心としたオブザーバーを派遣し多くの討議に参加し、それらの結果から策定された、これからのWOSM(世界スカウト機構)の方向性を理解するとともに、日本のボーイスカウト運動の展開方針についても世界の方針とも合致していることを再確認できました。

特に本年度から、社会ニーズに応え、ダイバーシティ&インクルージョン委員会が、「ちかいとおきて」の実践、SfH(セーフ・フロム・ハーム)教育と共に、スカウト運動の価値を高めることに取り組みました。

2024年度は、社会からのニーズに応えられる、青少年教育運動としてのボーイスカウトを、県連盟、団に關係する皆様のご尽力、地域社会の皆様のご支援ご協力のもとに、まだ十分ではありませんが日本中に展開いたしました。

I 最重点施策

「社会に貢献できるスカウトを育てるための仕組みを確立する。」

スカウトがボーイスカウト運動に影響を受け成長した結果、社会に貢献できる青少年を育てるため、ボーイスカウトの教育法があるわけですが、その方法が、現在の社会情勢を含めた環境と乖離していないかを考慮し、教育推進本部会合を中心に、より効果的な仕組みへの改善をまいりました。また、運営面でも、各委員会がそれぞれの立場で、社会貢献できるスカウトを育てるのにはどうしたらよいか考え施策を展開しました。特に、社会に貢献できるスカウトを育てるために、災害に対する対応として、ローバースカウトの防災ワークショップ開催、実際に、能登地震、豪雨の災害復旧へのボランティア活動が必要としている、生活が自己完結できる奉仕者としてローバースカウト、ベンチャースカウトの派遣奉仕は、特筆できることだと考えます。

なお、その他の成果としては、施策がなかなかスカウトたちに届いていないジレンマもありましたが、それぞれの担当のコミュニケーションが良くなり、日本連盟全体としての目的に対する施策のベクトルがまとまってきたと考えます。方向性が定まったことから、さらにスパイラルアップすることを期待できると思います。

II 重点施策

I. 「ワクワク自然体験あそび」の全国展開と質の向上

(中長期計画:基本施策I、II-1-6)

5年目を迎えた「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」は、文部科学省の後援を得て、昨年度に引き続き、47都道府県で開催することができました。1,098会場(中止を含む、事業登録は1,139会場)、10,127人の一般児童の参加を得ることができました。また、県連盟向け説明会の開催(計2回)、ホームページに申込ページ及び運営情報ページを掲載・更新、組織拡充委員他による会場視察、実施主体に開催補助金の交付を行いました。

なお、次年度も文部科学省の後援を得て開催できることが決定し、2025年3月に県連盟向け説明会を開催(計2回)しました。

すべての県連盟において実施されましたが、その開催頻度にはばらつきがあります。システムの改善などより実施しやすい環境を整えて行く必要があります。実施内容は多岐にわたりますが、今後は社会課題の解決を取り入れた内容を増やせるよう、推進を図っていきます。

2. 地域・国際社会に貢献するローバースカウト、ベンチャースカウトの育成

(中長期 Ⅲ-1-①「日本青少年プログラム方針」の策定)

第40回世界スカウト会議(2014年スロベニア・リュブリャナで開催)で採択された「World Scout Youth Programme Policy」(世界青少年プログラム方針)は、「青少年プログラム促進のためのガイダンス骨子」として位置づけられ、プログラムの定義やプログラム開発について示されています。そこで、日本版のプログラム方針を制定しました。

日本連盟が定めるスカウトプログラム方針は世界青少年プログラム方針に示された内容を踏まえた上で、日本連盟のスカウトプログラム基本的な考え方や開発、見直しのための指針として示されるものです。これを機に、スカウトプログラムは、「青少年が個人として、責任ある市民として、地域、国、国際社会の一員として自らの身体的、知的、情緒的、社会的、精神的可能性を十分に達成できるように青少年の発達に貢献する」という、スカウト運動の目的を達成するための最も重要な教育手段であることを再認識して、我が国におけるスカウトプログラムの適正な実践を推進と充実化を図る指針といたします。

また、2年前から取り組んでいるローバースカウト部門の教育の強化について、ローバースカウトハンドブックに続き、ローバースカウトリーダーハンドブックを発行いたしました。それをもとに、各隊、各地域でローバースカウトとは何か、どのように活動していけばよいのかを自らが理解できるように、スタートセミナーの教材の開発と公開をしました。続いてローバースカウト隊の指導者向けにローバースカウトリーダーセミナーの試行を実施しました。これをもとに次年度からは各地で指導者向けの研修会などが開催されていくことを望みます。

ベンチャースカウトについては、昨年度実施した進級課程の見直しを実施することで、地域課題やSDGsに取り組みやすい項目としました。特に第25回全国スカウトフォーラムにおいては、地域社会に向けて自らがどのように課題を見つけるのか、その課題を仲間と共にどのように解決策を見つけていくのかのプロセスを踏まえ議論を貸されることで、各地域でベンチャースカウトが地域や世界に向けて考える機会となりました。

3. 第13回日本アグーナリー開催と成功

(中長期計画:基本施策 Ⅲ-3-②「これからの主催大会の在り方検討とその考え方に基づく展開」)

スカウト活動を通じて、全ての参加者が障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支え合えあう社会の実現を目指すことを目的とし開催いたしました。単に障がいのあるスカウトのためだけの大会ではなく、参加するすべてのスカウト・指導者が、期間中の諸活動を通じて共に生きることを学ぶ「学習の場」とし、さらには、障がいの有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生する社会」を実現するという社会のニーズに応えることを目指して開催しました。

また今大会は2020年に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2024年に延期となり、「ふかめよう友情、ひろげよう絆」を大会サブテーマに掲げ、地域の人々との交流を積極的に取り組むことを目指しました。

【大会期間】

2024年8月8日(木)~8月12日(月・祝)※本部スタッフは8月7日(水)に入場し、12日に退場

【テーマ】

We Can! ふかめよう友情、ひろげよう絆

【後援】

文部科学省、福島県、福島県教育委員会、猪苗代町、猪苗代町教育委員会

【協力協賛】

アイコム株式会社/赤城乳業株式会社/株式会社ゴーゴーカレーグループ/ソニー・太陽株式会社/
パロアルトネットワークス株式会社/東日本高速道路株式会社(NEXCO 東日本)/
ビクトリノックス・ジャパン株式会社/明治ホールディングス株式会社/株式会社ヤクルト本社

【助成】

公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構

【参加者】

(1)参加人員 950 人

①参加隊 570 人

(国内 487 人、海外 27 人、ガールスカウト 16 人、一般(国内) 9 人、一般(韓国クインサ)31 人)

②本部スタッフ 380 人

(ベンチャー年代のチャレンジクルー 86 人及び日本連盟役職員含む)

※配慮の必要な方は本部スタッフを含め 99 人

(10.4%:参加隊 59 人、海外隊 14 人、本部スタッフ 22 人、一般参加者 4 名)

(2)デジビター(日帰り参加者) 295 人

(8 月 9 日 22 人、8 月 10 日 102 人、8 月 11 日 171 人)

(3)大会運営協力者

場内外プログラム、磐梯のタベ等で、ボーイスカウト北海道・東北ブロックの各県連盟をはじめ、
須賀川商工会議所青年部、猪苗代青年会議所、株式会社いなびし、有限会社エンターゲート、
チーム獅、福島県立あさか開成高等学校などから、ご協力をいただきました。

【大会本部】

事前の準備あたっては福島連盟の高崎副連盟長を実行委員長として、14 人の実行委員会を編成しました。正副実行委員長および大会運営の 5 つの部署の正副部長で構成し、各種準備にあたりました。大会期間中は水野大会長のもと実行委員会は運営本部として一丸となって大会運営にあたりました。

【ご来賓】

8 月 10 日には佳子内親王殿下のご臨席を賜り、場内プログラムの御視察、代表スカウトと親しく御懇談を賜り、食堂では、成人およびスカウトの奉仕活動を御視察いただくとともに、配膳の御支援を賜りました。そして、交流のタベにおいては、おことばを賜り、国内外の参加隊の演技を御覧いただきました。

以下、式典等へのご来賓の皆様(順不同、役職等は出席当時)

<国会議員>

文部科学大臣政務官 安江 伸夫 様

衆議院議員・ボーイスカウト振興国会議員連盟 玄葉 光一郎 様

衆議院議員・ボーイスカウト振興国会議員連盟 渡辺 博道 様

衆議院議員・ボーイスカウト振興国会議員連盟 亀岡 偉民(代理) 様

<文部科学省>

大臣官房参事官総合教育政策局社会教育振興総括官 平野 誠 様

<福島県他・その他団体>

県知事、ボーイスカウト福島連盟長 内堀 雅雄 様

県教育委員会教育長 大沼 博文 様

他、福島議会議員様、猪苗代町長様を含め近隣の市町村長様、関連団体役員の皆様

【成果と評価】

福島という地は、震災からの復興を続けながらも、その美しい自然と温かい人々で知られており、今回のアグーナリーを通じてその魅力を全国から集まったスカウトたちに届けてくださいました。開催地として、障がいがあるスカウトたちにとって新しい挑戦の場を提供するだけでなく、地域社会との絆を深めるものでもありました。

また、以前よりこの大会に関わってこられた皆様には、これまで培ってこられた経験と知識を惜しみなく共有していただき、細部にわたる運営が行き届いていたおかげで、スカウトたちは安全で充実した時間を過ごすことができました。

加えて、今回の大会では障がいの有無にかかわらず、多くのスカウトが参加し、共に活動することで互いに学び合う機会が提供されました。障がいがないスカウトたちも、日常生活では得ることのできない貴重な気づきを得ることができたと感じています。彼らは、障がいがある仲間たちと一緒に挑戦し、助け合うことで、自分たちがどれほど多くのことを共有できるかを体感しました。これにより、相互理解が深まり、真のチームワークを形成することができたことは、大会の大きな成果であったと確信しています。

そして、全国から集まったチャレンジクルーとして参加したベンチャースカウトたちのすばらしい盛り上がりは、大会の雰囲気さをさらに活気づけるものでした。彼らは、自らの役割を果たしつつも、常に笑顔絶やさず、他のスカウトたちを支え合いながら活動する姿が非常に印象的でした。参加したベンチャースカウトは、若いながらもリーダーシップを発揮し、全体の運営を円滑に進める重要な役割を果たしてくれました。彼らの積極的な姿勢とチームスピリットは、他の参加者にとっても良い模範となり、大会全体の成功に大きく貢献しました。

今回のアグーナリーの参加者は、参加人数 530人（前述の人数に一般等含めず）のうちカブ隊相当としての舎営は 292 人、ボーイ隊相当として野営が 225 人と約6割がカブ隊相当になっていること。そしてカブ年代として舎営であっても4泊5日という長めの活動になっていることなど、さらには DEI の観点も含め、基本施策である「これからの主催大会の在り方」での検討を進め、さらには 19NSJ での一部展開を含め進めてまいります。

4. 加盟員、社会への円滑な情報発信・伝達方法の確立と有効な展開

2024 年度の広報施策はデジタル化を中心に時代に合わせたアプローチへの転換を目指したほか、日本連盟の 2032 ビジョンを達成するための戦略的広報基盤の構築に取り組みました。

共通して 2024 年度広報委員会が重視したのがマーケティングの観点です。私たちボーイスカウトの顧客は誰で、それら顧客に対して私たちが提供できる訴求価値は何かを言語化した上で、顧客に対して伝わりやすい広報とは何か議論を重ねました。結果として、加盟員と社会への円滑な情報発信の推進にあたり、2024 年度は特に 3 つの施策に注力しました。

(1) タグラインの策定（中長期計画 重点事業 I-2 -③に関連）

特に、ボーイスカウトについて馴染みのない社会に対しての円滑な情報発信にあたっては、「ボーイスカウトが何か」を一般社会にもわかりやすく一言で簡潔に伝えることが肝要です。そこで、一般の方々への広報活動の際にこれまで活用されてきた「なろう。一人前に。」というフレーズの見直しに着手し、2024 年度は新たに「人と地球によりよい未来を」を日本のボーイスカウトのタグラインとして決めました。

タグラインは、わたしたちのブランド全体を象徴し、社会に対してわたしたちについて表す言葉を指します。2024 年度は世界スカウト機構も同様な広報的アプローチを採用しており、旧来の”Creating a Better World”に代わり”Ready for Life”を新たにタグラインとして制定しています。

今回定められた「人と地球によりよい未来を」というタグラインは、一般の方々にとってもわかりやすく、そして親しみやすくボーイスカウトについて知っていただくための広報的基盤となるものです。2024年度は「人と地球によりよい未来を」にあわせて普及資料も刷新しました。

(2) ボーイスカウトアプリの開発、公開準備（中長期計画 重点事業 IV-2-①に関連）

2023年度にSAJ会員マイページがリリースされたものの、マイページにおける情報発信の仕組みの構築は不十分な状態が続いていました。具体的にはマイページにて発信された情報はプル型での発信に留まっており、2024年度はプッシュ型で全国各地のボーイスカウト関係者に直接の情報伝達を実現することを目指し、ボーイスカウトアプリの開発に着手しました。アプリのリリース自体は2025年度になるものの、ビジネス要件の定義や業者の選定を経て設計フェーズが始まり、2025年度早期のアプリ公開に向けた準備を進めました。ボーイスカウトアプリの導入により、日本連盟のみならず県連盟や各団の着実な情報発信を支援する他、日本連盟全体における情報伝達の速度向上に寄与することが期待されています。

(3) 広報誌 COMPASS の立ち上げ

これまでになかった紙媒体の対外的な広報ツールとして、「COMPASS のぞいてみよう、ボーイスカウトの夏!2024」を刊行しました。COMPASS 誌は加盟員ではなくボーイスカウトをご存知ない一般の方々を读者ターゲットとして狙っており、日本全国そして世界に広がっているスカウト活動の様子を親しみやすく知っていただくためのツールです。したがって、掲載記事におけるボーイスカウト特有の用語などは一般の方々にもわかりやすい表現に差し替えながら編集をしました。夏号を経て、2024年度末には2024年度中の全国の活動記事を公募し編集作業を進めており、2025年の第一四半期に次号を発行予定です。

【評価と反省】

2024年度の広報委員会の各種施策は、「広報の質・量・速度の向上」という3つの柱にそれぞれ整理し、着手をいたしました。その中でも重要視していたのがタグラインの制定に代表される「広報の質」の向上です。「人と地球によりよい未来を」というタグラインは、ボーイスカウトの理念を対外的にわかりやすく表現することを目指しているほか、今後のブランディング、そしてPR活動の重要な基盤となります。これまでボーイスカウトの対外的認知度・理解度の獲得に苦戦をしてきた中、タグラインを活用することにより「ボーイスカウトは人と地球によりよい未来をつくる活動です」というように、一言で私たちの活動を社会に対して表せるようになりました。

よって、2024年度は今後の広報活動における基礎について質の改善を主軸として、加盟員と社会への円滑な情報発信および伝達方法の確立を目指しました。ボーイスカウトアプリのように本格的なリリースは2025年度に予定されているものもありますが、2024年度の広報的な準備が2025年度以降の広報的環境改善に大きく貢献することが期待されています。

一方、2025年度は広報施策の軸足を「広報の量と速度」の向上に切り替えての施策を展開します。タグラインが掲載された普及資料のような各種PR媒体の活用した全国一丸でのPR活動の量の増加や、ボーイスカウトアプリを活用した対内的情報発信の速度の向上を目指します。

5. 日本連盟のガバナンス強化

日本連盟としてのガバナンスを高めるためには、県連盟、団、隊を含めたガバナンスを高めなければなりません。日本連盟としては、法務担当理事を中心に、今後、青少年教育で課題となると思われる「日本版DBS」の研究と、対応を検討してまいりました。

また、事務局のガバナンスをより高めるために、事務局の決め事の棚卸に取り組みました。そこで問題

やガバナンスの脆弱制が判明し、改善に取り組んでいます。一例とすると、事務局職員の業務多忙による業務遅れについて、その原因が、管理不足と判明し、それに対し、グループでの業務執行を決めました。属人化しがちな業務の見える化も大きな課題となっていること、職員間の業務量の差が大きいというに、特別事業開催時に対して追加業務が増加すること。これらに対し、改善に取り組んでいます。
(参考資料) 日本版 DBS: 子どもの安全を確保し、性犯罪を防止する措置のひとつとして、対象事業者に対し、子どもに接する仕事に就くに、性犯罪の確認を義務付ける制度

Ⅲ 成果目標

【目標値】

加盟登録者数 77,700 人以上	➡ 74,437 人	未達成
全体新規加盟者数 9,700 人以上 (2024/4/1~2025/3/31)	➡ 8,294 人	未達成
全体未継続者数 9,700 人以下 (2025/3/31)	➡ 12,689 人	未達成

【評価】

各団、県連盟の多大なご努力がありましたが、目標は達成できませんでした。特に昨年まで好調でしたビーバースカウトの増加が頭打ちになっていることは、今後の上進者の減少になり、加盟員減少が加速することを危惧し、対策を打っていきます。また、それに加えて指導者不足と高齢化に対する対応も重要な要因と考え AIS 委員会を中心に、指導者のライフサイクルに対する考え方の普及、指導者リクルートについても対策を打っていきます。

Ⅳ 日本連盟が展開する施策、実施する事業

【公益事業】

1. 教育計画の策定および運営事業(公 | 事業)

(1) 諸会議の開催

以下の諸会議を対面及び WEB にて開催しました。

なお、会議開催の詳細については、各事業の報告を参照ください。

県連盟代表者会議、全国事務局長会議、全国県コミッショナー会議、全国組織拡充委員長合、宗教代表者会議評議員会、理事会、教育推進本部関連会議、各種委員会、特別委員会、各連絡会議、RCJ 運営委員会、名誉会議、キックオフミーティング

(2) 組織拡充県連盟支援事業

青森県・山形県・高知県・熊本県・沖縄県連盟の 5 県連について 2024~2025 年度に渡って継続的な支援を行うこととしました。各県連と十分な話し合いを持ち、それぞれの県連に合わせたきめ細やかな支援を行ってまいります。

【組織活性化戦略セミナー開催】

広報委員会、AIS 委員会と協力し、福井県・岐阜県・熊本県・山口県・石川県・奈良県・大分県・京都連盟で計 8 回開催し、計 470 人の参加を得ました。セミナー後フォローアップを行い振り返りの機会を設けました。

(3) 募金関連事業

【感謝状・年功章(年功メダル)・カレンダーの発送】

維持会員への感謝をしるすため、維持会費の累積額に応じた「感謝状」、継続年数に応じた「年功章」(加盟員)、年功メダル(非加盟員)の発送を行いました。また支援企業などを含めて「ボーイ

スカウトカレンダー」をお届けして、日々の活動が目につくようにしています。

【ボーイスカウト NEWS・リーフレット】

<https://www.scout.or.jp/support/supporting-member>

日本のボーイスカウト運動を支えていただく維持会員に対して、活動のトピックスを伝えていくために、一昨年から「ボーイスカウト News」と名称改訂して、6月12月の年2回発行しました。また、維持会員を幅広く募集するために、広報委員会に協力してもらい、共感を得て、解決策としてのスカウト活動を紹介するリーフレットの改訂に取り組み始めました。

また、取り組みの参考にしていくために、県連盟での維持会員への対応についての取り組み状況についていくつかの県連盟から状況をヒアリングしました。

【決済方法の提供】

また維持会費の納入方法には、日本連盟サイトからの「コングラント」によるクレジットカードによる納付(マンスリー維持会員・年間会員)、「金融機関からの振込」をご用意しています。

維持会員からの寄付 8,908,000 円(目標額 2,050 万円)

※日本連盟全体では 62,854,000 円(目標額 57,500,000 円)

一般寄付 3,710,839 円

(4)「ともに進もう助成プログラム」事業

【クラウドファンディングの実施】

「ひとり親家庭を応援!ボーイスカウトで"未来に生きる体験"を届けたい」

https://readyfor.jp/projects/scout_tomosusu02

実施期間 24.12.20-25.2.20

目標額の 330 万円を大きく上回る 405 万 1 千円(263 人からご支援)をいただきました。日本連盟創立 100 周年の機会に初めて実施して以来、3 回目の実施となりましたが、累計でのべ 851 人のべ 12,351,000 円のご支援をいただいています。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。オンラインミーティングでは、多様なゲストを迎えて、理解が深まるように取り組みました。

[オンラインイベント]

12/19 キックオフオンラインイベント(松岡&和田委員)

12/26 ゲスト:広報委員長・木村直登さん

1/10 ゲスト:副総コミッショナー・木村寿宏さん

1/20 ゲスト:釜ヶ崎支援機構・事務局長 小林大悟さん(元スカウト&ボーイ隊長)

2/6 ゲスト:ローバースカウト・貝原旭騎さん

2/20 最終日イベント

【トモス指定寄付/もったいない寄付】

<https://www.scout.or.jp/support/donation>

ひとり親家庭などへの支援を行う助成金原資として、指定寄付およびご家庭に眠っている不用品を回収して役立てる「もったいない寄付」を実施しました。

指定寄付 5,324,644 円

もったいない寄付 257,192 円

加えて、「つながる募金」による納付、「Yahoo!ネット募金」による納付など多様な決済手段がありますが、Yahoo!ネット募金とつながる募金については、さらに PayPay からの決済にも対応するようになりました。Yahoo!ネット募金は、V ポイントでも納付できるので、他の決済手段も含めて一般の方からも利用しやすいように案内に務めていきます。

【対象者向けアンケートによる「トモス助成インパクトレポート」を公開】

<https://www.scout.or.jp/member/tomosusu-report2024>

ひとり親家庭の保護者に向けたアンケートを実施して、その結果をまとめました。ボーイスカウト活動をできる限り長く続けさせたい 71%、スカウト活動を友人知人に勧めたい 73%、ボーイスカウトが子どもにとって大切な居場所になっていることに加えて、相談相手の一つとしてスカウト関係者を挙げるのが約 2 割(学校の先生の 2 倍)と保護者にとっても繋がりを感じる地域のコミュニティになっていることがわかるなど、日本の社会課題のひとつである「孤立・孤独・孤育て」についてスカウト活動が取り組んでいる価値について可視化しました。

【トモスス助成の現状】

<https://www.scout.or.jp/member/group-operation/subsidy-program>

ともに進もう(ひとり親家庭等応援)助成プログラム(略称:トモスス助成)は、経済的な理由で活動に参加できない子どもたちに機会を提供できるよう、主にひとり親家庭を対象に、活動への参加にかかる費用の一部を助成している取り組みです。2024 年度は 243 名に助成を行いました。これまでの助成は 10 年間にのべ 1311 名にも及んでいます。

[次年度に向けた募集を開始]

募集期間 2/23-3/31

対象 スカウト活動を希望するビーバー、カブ、ボーイ年代

2025 年度からは、ベンチャー年代も加えて支援を行います。

【クラウドファンディング・オンライン報告会】

<https://youtube.com/live/VHaT8bHHN3I?feature=share>

前年度に取り組んだクラウドファンディングでお預かりした寄付の使い道について、オンラインでの報告会を実施。トモスス助成として活用した様子を保護者アンケートの結果などから紹介した。

実施日 24/10/17 実施場所 オンライン(YouTube ライブ)

(5)「全国防災キャラバン」展開事業

参加者は約 9,000 名にも及んでいます。日本各地で災害が頻発している中で、改めて「災害対応」「防災」に対する関心が高く「思いやり防災」をテーマに共通プログラムとして災害時の多様性への配慮などを体験できるワークショップを展開しました。

また、会場によっては地域の他団体と連携して、オリジナルプログラムを各地で展開したことを報告いただいております。地域との連携が今後は「顔と顔の見える関係」となって、防災力の向上に寄与することができると感じています。「スカウト=そなえよつねに=防災力=生き抜く力」というイメージへも貢献を果たしているプログラムとなっています。

【実施概要】

<https://www.scout.or.jp/member/regular-event/disaster-prevention-caravan>

実施期間:会場ごとに通年で実施(約 8 割が 9-11 月の秋口の開催)

実施会場:全国のイオンモール等

共 催:イオン株式会社、イオンモール株式会社

また次年度に向けて、オンラインでの説明会を 2 回実施しました。

[第 1 回]25/2/17 [第 2 回]25/3/21

(6)「スカウトと社会をつなぐ場所」事業

事業を通じて社会に貢献されている企業経営者の声をこれから社会へ羽ばたいていくローバースカウト年代が直接に伺い、未来への指針を考える機会とすると共に、企業経営者にとってもスカウト経験者という素晴らしい人材について認識を深めてもらう機会となるように設定された「スカウトと社会を

つなぐ場所」(略称:スカシャカ)は、プログラム委員長、ファンドレイジング委員長で協議して、当面の間、開催を見合わせることにしました。

(7)「人生の岐路に立つ君に」事業

昨年度(2023年3月)に発送した1,644人(内、62通は「あて所に尋ねあたりません」等で事務局に戻り)の手紙を送付し、9人のスカウトから新しい住所地の団を紹介して欲しい旨の連絡がありました。9人の内3人には大学ローバー隊を紹介し、1人が大学ローバー隊に従登録して活動を開始しました。残りの6人には新しい住所地の団を紹介し、4人が転居先の団で活動を開始しました。

今年度については、2024年1月10日までに対象スカウト1,534人((内、51通は「あて所に尋ねあたりません」等で事務局に戻り)へ発送しました。

(8) 顕彰事業

宗教章は、カトリック、真宗大谷派、浄土真宗本願寺派の講習会・研修会の開催案内を、日本連盟から全県連盟に発信した影響で昨年度より取得者が約50人増加したことから、その後も継続して発信していくことで、宗教章の取得は増加していくことを望みます。

富士スカウト代表による国の主要機関への表敬訪問を行い、スカウト自身の情熱の喚起と社会貢献意欲を向上させることを目的に実施しました。2024(令和6)年1月1日から12月31日までに富士スカウト章を受章した27県連盟124人(うち59人は新型コロナウイルス対応における進歩に関する特別措置により取得)のスカウトを事業対象者とし、その中から県連盟に推薦された代表スカウト94人により実施しました。

【秋篠宮皇嗣殿下へのご接見】

日時:2025(令和7)年3月26日(水)10:00~11:00

場所:赤坂東邸

参加者:代表スカウト26県連盟47人

【首相官邸への表敬訪問】

日時:2025(令和7)年3月27日(水)18:00~18:15

場所:首相官邸(今年度は首相官邸で石破総理大臣とあべ文部科学大臣を表敬訪問)

参加者:代表スカウト14県連盟47人

決意の言葉、司会、弥栄を行うスカウトは、自己紹介等の動画を提出資料とし選考を行い、表敬訪問に参加するスカウトは、訪問日前日に集合し準備訓練を実施しました。秋篠宮皇嗣殿下へのご接見では、富士スカウトたち一人ひとりが、自身が挑戦した社会貢献や高度な野外活動プロジェクトについて殿下へ説明し、殿下からのご質問にお答えするなど貴重な時間をいただきました。首相官邸への訪問では、石破内閣総理大臣より励ましの言葉を、あべ文部科学大臣から激励の言葉を賜りました。

富士スカウトの人数については、コロナが始まった2020年の56人を除いて、2023年度も特例の59人を除く実質は78人、そして2024年度が88人と低迷しています。コロナ禍の影響で進級が滞っていたのが今頃顕著になってきた、もしくは2024年度からの進級課程・課目の改定の影響などが考えられます。

(9) ローバースカウト研修開催事業

昨年度から引き続き、二度目のローバースカウト向けの事業ですが、前年の評価・反省を踏まえて今年度のプログラムは運営委員のローバースカウトが自ら考え、詳細な準備を整えた結果、参加者からの評価は前年を上回る結果になりました。また、この事業に参加したローバースカウトが被災地支援

を実際に行うといった行動も多く見受けられました。徐々にスカウトたちの気持ちと行動の変化が見えてきているこの事業を次年度も続けることとします。

〈事業概要〉

事業名称:Rover Scout Workshop 2024

～今こそ求められる「自助」・「共助」・「災害ボランティア」のチカラ～

実施日:2025年2月22日(土)～24日(月・祝) 2泊3日

実施場所:MOA大仁研修センター(静岡県伊豆の国市)

参加者:ローバースカウトおよび同年代の指導者 22 県連盟および台湾連盟から 47 人(男 29 人、女 18 人)

運営:ローバースカウトと成人指導者による運営委員会により運営した

ローバースカウト 6 人、指導者 13 人(うち 1 人は台湾連盟)、プログラム委員 6 人

協賛・協力:株式会社ゴーゴーカーレー株式会社、静岡県連盟伊豆地区の皆様

〈プログラム内容〉

事業目的:本事業を通じて、自助と共助に関する知識とスキルを習得するとともに、災害ボランティアの手法を学ぶことで、持続可能な地域社会の実現に貢献できる人になることを目的とする。

事業目標:

- A.災害時に自身と家族の命ならびに財産を守るために必要な知識・技能・心構えを習得する。
- B.地域社会において仲間と協働して、互いに助け合う為に必要な知識・技能・心構えを習得する。
- C.スカウティングを通じて得た知識やスキルを基に災害ボランティアに参画する手法を習得する。
- D.本事業で習得した知識・技能・心構えを生かして地域社会で活動する。

(10) その他教育計画の策定および運営事業

「2024年度スカウトの日」への取り組み

【事業概要】

実施日:2024年9月16日(月・祝)

協賛:一般財団法人セブン-イレブン記念財団

テーマ:プラごみバスターズ大作戦

【参加申し込み状況】

47 都道府県連盟の719団からスカウト 19,785人、指導者 10,617人、合計 30,402人の申し込み

(昨年度 44 都道府県連盟の 668 団からスカウト 18,428 人、指導者 9,497 人、合計 27,925 人)

【活動報告】

46 都道府県連盟の 583 団からスカウト 10,183 人、指導者 5,677 人、合計 15,860 人

(昨年度 44 都道府県連盟の 407 団からスカウト 6,526 人、指導者 3,704 人、合計 10,230 人)

【エコプロ2024への出展】

2024年12月4日～6日、東京ビックサイトにて開催

東京近辺在住のローバースカウトへ協力により、日本連盟のブース出展を実施

12月4日(水):ブース来場者 110 人/入場者 20,845 人

12月5日(木):ブース来場者 145 人/入場者 21,823 人

12月6日(金):ブース来場者 161 人/入場者 20,635 人

【セブン-イレブン記念財団様による事業事例紹介】

日本連盟創立100周年記念事業の一環として2022年度に実施した「プラごみバスターズ大作戦」の際に取り組んだ「牡蠣パイプ由来のペレットで買い物かご」を、大阪万博会場内に
出店するセブン-イレブン店舗にて利用される予定で、当時の取り組み状況とともにセブン-イレ
ブン記念財団とボーイスカウト日本連盟による共同事業として紹介されております。

特にビーバースカウトやカブスカウト、保護者や地域の方々を巻き込んで活動できる環境活
動であり、歴史のある事業ですので、各団・隊においても引き続き積極的な取り組みをお願いし
ます。

(11) BSの特性を活かした自然体験活動開催事業

①「ワクワク自然体験あそび」

Ⅱ 重点施策の1、「ワクワク自然体験遊び」の全国展開と質の向上を参照

②委託事業

高萩スカウトフィールドにおいて、高萩市内の小学校、高等学校、水戸市内の専門学校から事業委
託を受けて、BSの特性を活かした自然体験活動を提供しました。

9月12日(木)～13日(金) 高萩小学校:参加者61人(教員含む)、スタッフ4人

9月19日(木)～20日(金) 秋山小学校:参加者53人(教員含む)、スタッフ4人

9月26日(木)～27日(金) 松岡小学校:参加者56人(教員含む)、スタッフ6人

9月24日(火)～25日(水) リリー子ども&スポーツ専門学校:参加者24人(教員含む)、
スタッフ3人

10月1日(火)～2日(水) 東小学校:参加者33人(教員含む)、スタッフ3人

10月11日(金) 高萩高校:参加者70人(教員含む)、スタッフ6人

10月31日(木)～11月1日(金) リリー子ども&スポーツ専門学校:参加者30人(教員含む)、
スタッフ3人

(12) 教育に必要な施設の提供事業

今年度設置された那須野営場検討特別委員会より理事会に向けて、那須野営場本館は老朽化
が著しくかつ建築設備のバリアフリーやダイバーシティといった社会意識の変化への対応が必要で
あり、安全性、利便性、快適性を確保し、長期的なライフサイクルコストが安価な「本館の建替」を提言
され、老朽化の激しい「那須野営場」については、スカウト教育メッカとしての役割を担うために、本館
建て替え工事や場内整備に着手。「高萩スカウトフィールド」については今後の在り方について再検
討を進めていきます。また「スカウト会館」についても利用の現状を見つめて検討を進めていきます。

(13) 集会および講演会の開催事業

【第13回日本アグーナリー(13NA)の開催】

実行委員会及び正副実行委員会、さらには5つの専門部会の他に「安全・危機管理室」を含め準
備、当日運営を進めました。

5月の全国大会にて13NAのブース展示にてデイビジター(日帰り参加者)のお誘い(通常の参
加はすでに申し込み完了のため)と障がいのあるスカウト活動への理解推進を行いました。

また、多様性の理解を深めるとともに大会当日の研修時間を短縮すべく、7月15日には本部ス
タッフ(ベンチャー年代のチャレンジクルーを含む)オンライン研修会(スタッフは原則全員参加、当日
不参加の方は録画の視聴)を実施しました。

さらに、活動を通じて共に生きることを学ぶ「学習の場」さらには、障がいの有無にかかわらず、相互
に人格と個性を尊重し支え合う「共生する社会」を実現するという、大会の趣旨を理解いただくため、

そして参加直前にあたり各指導者の皆様の疑問点等を少なくすべく7月22日に参加隊長会議をオンラインにて実施しました。これを通じて大会の運営スタッフと参加隊指導者が一緒につくる大会であることを再認識することができました。

また、大会にはボーイスカウト加盟員以外からの一般参加者もあり、参加を予定するご家族向けに現地での説明会を行いました。(事業内容は前述のⅡの3の通り)

【日本ローバームート2024の開催】

19年ぶりとなるローバースカウト年代を対象とした野営大会「日本ローバームート2024」は、国内参加者220人、外国スカウト連盟(台湾、韓国、香港、マレーシア)参加者28人、運営48人、デイビジター等も含めまして、総勢312人を迎え、6日間にわたり開催しました。

運営:日本ローバームート2024実行委員会

期間:2024年9月3日(火)~8日(日)

場所:日本連盟那須野営場(〒329-2756 栃木県那須塩原市西三島7-334)

目的:野外における仲間との生活およびプログラムの実践を通して、参加者の社会に奉仕する精神と体力を養うとともに、今後の自己実現に繋がる機会とすること。

- 目標:
- ・自己への理解を深め、自身の将来について考える機会を提供する
 - ・開催地域の文化や歴史への理解を深め、地域と直接的な関わりをもてる場を提供する
 - ・参加者や参加者の生きる社会に関し、影響を及ぼす問題に対して意見を交わす機会を提供する
 - ・参加者の創意工夫を促し、主体性、リーダーシップスキルを伸ばす機会を提供する
 - ・参加者の多様性を尊重し、多様なニーズに配慮する
 - ・他国連盟スカウトを招待し、国際交流を促す
 - ・エンターテインメントとレクリエーションを提供する

テーマ:momentum(モメンタム)

参加費:一人あたり30,000円

参加者:総勢312人

国内参加者:36都道府県連盟から216人/一般参加者4人

海外参加:4つの国と地域(韓国・台湾・香港・マレーシア)から28人

実行委員会・サービスチーム員:48人

デイビジター:16人

プログラム概要:

- 1日目「自己理解」設営・ビジル
- 2日目「自己受容」開会式・場内プログラム・Welcome Night
- 3日目「自己探求」場内プログラム・自由交流プログラム
- 4日目「自己表現」場外プログラム・大集会
- 5日目「自己成長」場内プログラム・自由交流プログラム
- 6日目「自己実現」閉会式

プログラム協力(敬称略)

国連 UNHCR 協会・東洋測量設計株式会社・栃木県立日光自然博物館・那須塩原市森林組合・那須 乃木神社・日光東照宮・株式会社 MOMIJIKA・三島公民館・三島神社・龍谷山洞泉院・日本連盟医療チーム・牧島宏之 様(日本連盟災害対応タスクチーム)

広報協力(プロモーションビデオ制作)

ボーイスカウト栃木県連盟ローバースの皆さん

野営場整備

公益財団法人日本ボーイスカウト栃木県連盟

長年開催を望まれていた、ローバームートをローバースカウトの準備と運営のより、多くのスカウトの参加により成功に導いたことはすばらしく、参加したスカウト同士の交流やその後の活動の弾みになったとの報告も受けており、今後の日本中のローバースカウトの活躍が大変楽しみです。仲間と共にもしくは個人で、地域や社会で何をすべきかをそれぞれが考え、社会をよりよくするためのアクションを起こしていただけると期待します。

【第25回全国スカウトフォーラムの開催】

〈開催趣旨〉

スカウト運動の原点である「スカウトたちの声に耳を傾け、その意見をスカウト運動に反映させていくこと」を実践し、「青少年の意思決定への参画」を、より推進していくことを願い、全国スカウトフォーラムを開催しました。

スカウトフォーラムでは、スカウト個々が自己の成長をはかり、幅広い社会性を身につけ、相互の理解を深めるための貴重な機会が提供されるように開催し、また、フォーラムでの討議が参加者のみならず広く共有されるよう、参加スカウトの気運を高め、各県連盟へフィードバックができることを目指しました。

■期 間：事前集会 2024年10月19日(土)18:30~21:00 オンライン

フォーラム 2024(令和6)年11月2日(土)~4日(月・祝)2泊3日

■会 場：兵庫県立嬉野台生涯教育センター(兵庫県加東市下久米1227-18)

■参加者：県連盟代表 43県連盟72人

(今回は、各県連盟からの代表スカウトを最大2人とし、29県連盟から各2人が参加)

■スタッフ：全国スカウトフォーラム運営委員会15人、日本連盟プログラム委員会4人、兵庫連盟支援委員会8人

本フォーラムは、日本連盟プログラム委員会による大枠の検討を行い、当日の運営やグループファシリテーターを務める「全国スカウトフォーラム運営委員会」を公募して、過去のフォーラム経験者や開催地の兵庫連盟を中心としたローバースカウト年代のスカウトおよび指導者で編成し、事前準備と当日の運営を行いました。

■開催方法：オンライン事前集会 Zoomにて、基調講演とグループワークを実施

県連盟フォーラムの報告と事前集会に基づく課題を事前に提出してもらい、当日は、代表スカウトを6~7人よる11のグループ分けて、運営しました。

■主 催：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

■テーマ：高校生年代×地域社会 ~私たちだからできること~

第1回全国スカウトフォーラムで「より良い社会を目指して、スカウトは何をすべきか」について討議されたことから、「スカウトの日」が始まりました。「社会との協業」の必要性が高まる中で、スカウト運動による地域社会への貢献がより一層求められています。ベンチャースカウトの可能性を見出し、広げ、ベンチャースカウトだからこそできる“未来につながる地域貢献活動”を当事者意識に基づき考える機会とするため、テーマを選定しました。

■基調講演講師：

〈事前集会〉

特定非営利活動法人(NPO法人)こうべユースネット 理事長 辻 幸志 氏

特定非営利活動法人こうべユースネットでは、年齢や性別、国籍や障害の有無を越えて「共に生きる社会」の実現を目指し活動を行っており、兵庫県内の青少年施設や野外活

動施設を中心とした、青少年支援団体での活動や青少年の居場所についての講演をお願いしました。

<当日>

特定非営利活動法人(NPO 法人)シミンズシーズ 代表理事 柏木 登起 氏

主体的に活動する「市民」が活躍する市民社会の実現を目指し、コミュニティ・プランナーとして活動し、人のいるあらゆる場所、場面で、「自分でつくる」ことへの働きかけをプロデュースしています。地域自治組織の支援や生涯学習・男女共同参画の推進等にも関わっており、当日の導入となる基調講演と、参加者が考える地域の課題についてのワークショップをお願いしました。

■スカウトフォーラム提言

きっかけをつくれるVSが先陣を切る!!
身のまわりの人を巻き込み、
“地域をよりよくする意識を 0 から 1 へ”

<アフターフォーラムの取り組み>

今回のスカウトフォーラムにおいても、全国一律で実施するようなアクションプランはその場では採択せずに、スカウトの所属する県連盟や地区、団などそれぞれの地域でフォーラムでの検討事項を具現化した活動につなげていくことを願い、参加者全員で「スカウトフォーラム提言文」として採択しました。

本提言文の趣旨や意図を所屬地域のスカウトに伝えていくために、代表スカウトが主体となり、本フォーラムの報告の場としてアフターフォーラムを開催し、検討した背景や採択された経緯などの説明のほか、アクションプランへの取り組みに繋げていただくことを期待して本フォーラムを散会しています。次年度(2025年度)事業として、アフターフォーラムの実施状況を報告し合う場を11月1日~3日に予定しています。

全国スカウトフォーラムでの提言をもとに各地域や隊で開催されるアフターフォーラムや語の後のアクションの実施についても実施報告が届いており、各隊指導者、コミッショナーの皆様からの支援は継続して必要となってきます。それぞれのスカウトの行動が次の世代へ引き継いでいけるように、指導者の方々は引き続きご支援をお願いします。

【第19回日本スカウトジャンボリー(19NSJ)の開催準備】

前年度3月9日の理事会にて承認された「第19回日本スカウトジャンボリー基本構想」に基づき、開催の準備を進めました。

- ①5月7日の理事会を経て、6月24日広島県神石高原町にて神石高原町様、株式会社神石高原ティアガルデン様との地域連携協定を結びました。
- ②9月から委員会随時報告で会場の利用計画、サイトの区割りやサブキャンプの区分、給排水等の主要設備検討のために会場の測量と基本設計を外部に委託しています。
- ③10月より事務局現地対応にて、食材調達、本部給食計画、会場設営業務、炊事用燃料、提携給油所・燃料、売店、宿泊、場外プログラム、バス輸送、氷の調達・幹旋、観光紹介等として観光協会・商工会との調整を随時行っています。また水源と水利用について福山市上下水道局とも調整を行っています。
- ④水質検査において、一部マンガン値が高いためその対応として浄水器メーカーにて現在、ろ過実験等での改善を検討しています。

- ⑤参加者総数、4つのサブキャンプ分け、さらに加盟員数に基づいたにブロック別の参加割当人数を、11月16日開催の全国県連事務局長会議、1月18日開催全国コミッショナー会議、1月25日開催の県連代表者会議にお示しをし、同時(11月13日付)に参加希望者数の事前調査を行いました。
- ⑥大会テーマを第3回運営委員会にて素案を決め、専務・常務会で確認し「挑戦～神石から未来への一歩～」と決めました。
- ⑦1月理事会にて報告、3月理事会にて大会第一次予算及び以下の基本実施要領を承認いただきました。

以下、基本実施要領の概要の抜粋、詳細は県連代表者会議等にて配付済みのものを参照

【大会名称】第19回日本スカウトジャンボリー(略称:19NSJ)

19th Nippon Scout Jamboree

【目的(抜粋)】

2023年から10年間で取り組む第3期中長期計画の各施策を具現化し、2032ビジョンを達成していく機会とする。

風光明媚な瀬戸内海に面しながら、緑豊かな山間地域が広がる備後地域の自然環境を取り入れながら、地域に密着したプログラム、また、スカウト運動が「平和」に貢献していることを実感し、「世界平和」に向けた新たな取り組みを考えるプログラムを展開する。

従前の大会よりも参加割合を減らして開催することから、キャンプ生活による工夫により自然環境への負荷を減らす環境に配慮した大会を実践し、参加者と大会運営スタッフが協働しながら快適なキャンプ生活をおくる。

【テーマ】「挑戦～神石から未来への一歩～」

【会期】2026(令和8)年8月4日(火)～10日(月)6泊7日

【日程】

8月2日(日)	大会運営スタッフ入場・設営
8月3日(月)	準備作業
8月4日(火)	参加者入場・設営、開会式
8月5日(水)	プログラム
8月6日(木)	プログラム
8月7日(金)	プログラム・信仰奨励・ジャンボリー大集会
8月8日(土)	プログラム
8月9日(日)	プログラム・閉会式
8月10日(月)	撤営・参加者退場
8月11日(火)	撤営・大会運営スタッフ退場

【会場】広島県神石郡神石高原(じんせきこうげん)

福山市の中心地・JR福山駅から約38km、山陽自動車の福山東インターから約36km、いずれも国道182号線を経由して車で1時間弱。中国自動車道の東城インターから車で約27km・30分。

【参加人員】派遣隊6,400人(外国、ガールスカウト等を含む)、
大会運営(サブキャンプ運営・派遣団スタッフ)1,600人
合計8,000人

【参加対象者】ボーイスカウトおよびベンチャースカウト

スカウトの全国大会として、ボーイスカウトとベンチャースカウトを参加対象者として、ローバースカウトと指導者が大会運営にあたります。

【サブキャンプ】4 つにサブキャンプを分けて運用

【大会参加費の見込み】1 人あたり 60,000 円を予定

⑧ワッペンデザイン及び大会テーマソングの募集を行いました。ワッペンデザインは4月 21 日締め切りにて5月初旬までに決定する予定です。また、テーマソングは5月 31 日締め切りです。

⑨3月 21 日に 2025 年4月 15 日開催の県連盟説明会の案内並びに県連盟派遣団長の選任依頼を発信しました。

【スカウトソングセミナー2024の開催】

【開催主旨】

新たなスカウトソング音源を活用しスカウトソングを活動の中に取り入れて、ソングが響く活動をスカウトが自主的にできるように育む指導者を増やすことを目的として開催しました。

【目標】

歌うことに抵抗のない指導者も苦手な指導者も、一緒にソングを楽しむ機会とする。

スカウトソング音源の製作実績を紹介し、室内や野外での活用例、集会実施に向けた事前準備等で活用できることを知る。

【テーマ】

スカウトソングの「五つの『か』」かしこまらずに、カジュアルに。

・**カジュアル**に聴いて、歌ってみよう!

・**ガチ**に聴いて、歌って、味わおう!

・**カッコ**良く身体を動かし、歌い踊ろう!

・**活気**があって、**感動**するプログラムを仕掛けよう!

【日時】

2025年3月22日(土) 13:00~16:30

【方法】

大阪スカウト会館から YouTube によるオンライン配信

【運営スタッフ】

AIS 委員会、プログラム委員会、スカウトソング音源タスクチーム、ソングフェロー

【参加申込】

38 県連盟より 371 名、当日のオンライン参加約 290 名

(14) 共済事業

① 共済事業

共済加入者数は 80,785 人(非加盟員含む)で、対前年比で 3,222 人減、3.8%減で事業運営しました。運営にあたり、Chubb損害保険株式会社(以下「Chubb損保」)との再保険契約を継続し、当連盟が支払った共済金の一部を再保険金として回収しました。

② 安全普及啓発活動等

安全普及啓発活動として「安全促進フォーラム」、「セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム」及び「安心・安全講座」の3事業に取り組みました。

【安全促進フォーラム事業】

下記の通り5回開催しました。

7月7日 奈良会場：39 人

9月29日 東京会場：27 人

10月6日 群馬会場：35 人

1月26日 石川会場：21人

2月2日 長野会場：33人

【セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム事業】

2月8日 山口会場：8人

3月9日 北海道会場：35人

【安心・安全講座事業】

スカウティング誌に掲載する「野外活動のための安心・安全講座」の合本電子化やセーフ・フロム・ハームの研修プログラム(Eラーニング)の内付内容直しを行ったほか、全県連盟事務局に対するAEDトレーニングキットの配付および希望する県連盟事務局に対するAEDの再配備に伴う一部経費の補助を引き続き行った。

③監査

本年度は10月28日に文部科学省の立入検査があり、結果として「是正又は改善の措置を要すると認められる事項については検出されなかった。」の書面はいただいたが、いくつかの書類の日付の不備等の指導がありました。また2月7日に当連盟担当役員による内部監査が実施されました。大きな不備は認められず、業務遂行状況は概ね良好である点を確認するも、共済金掛金の再検討、説明書の改善の指摘をいただき、来年度以降に対応する方針としました。

④役職員に対する教育・研修等の実施状況

理事会において共済事業の関連資料を配付、また、理事研修会において「そなえよつねに共済」の内容についておよび安心・安全制度について研修を行い、共済事業における役員の責務をはじめ、事業全般に対する理解を深めました。担当職員についても円滑な業務遂行を目的に研修を行い、共済事業の内容、とりわけコンプライアンスを重点的に学習しました。外部委託業者に対しても定期的な点検を通じて、迅速かつ正確な事故処理体制および業務水準の確保に努めました。

⑤賠償責任保険

全ての加盟員に対人(1事故最大5億)および対物(1事故最大500万円)の賠償責任保険を付保し、万が一の際の損害賠償をカバーしました。

また、2021年度より、日本連盟役員の賠償リスクを補償し、安心して組織運営ができるよう会社役員賠償責任保険も付保しています。

(15) 震災および豪雨支援

- ① 令和6年3月以降、危機管理委員会災害対応タスクチーム(令和6年4月以降常設)を編成し継続的に石川県連盟の珠洲市における震災および豪雨災害に対する支援活動に協力しました。(特定資産、支援金の活用による)
 - ・全国のローバースカウト(一部ベンチャースカウト)、指導者によるボランティア活動
 - ・Wifiの設置、局用車の貸出
 - ・ボランティアセンターに対し高圧洗浄機の寄贈等
 - ・令和7年3月20日~24日の間、珠洲市大谷地区の民家等の片付け作業等を全国から参加のローバースカウト、ベンチャースカウト、指導者等約40名により集中実施。
- ② 全国各団等による義援金募金の展開、見舞金の贈呈
- ③ その他各種支援事業等への協力

2. BS 運動の普及および広報事業(公2事業)

(1) 普及事業

①普及資料の作成

新しく定めたタグライン「人と地球によりよい未来を」にあわせて、団体案内・保護者向けリーフレット・3つの媒体を刷新しました。タグラインは先述の通り、社会に対してわかりやすく私たちの活動を伝える言葉です。

②写真・ムービーコンテスト

第52回全国写真コンテストを実施しました。少年少女の部、青年成人の分、オンライン投稿の部の3つの部門でのコンテストを実施し、全国からの応募を募りました。

なお、ムービーコンテストについては、広報委員会内での工数逼迫により2024年度の開催は見送りました。

③ブランドガイドラインの刷新

新しく定めたタグライン「人と地球によりよい未来を」にあわせて、ブランドガイドラインを刷新し、3月の理事会にて承認を得ました。新しくなったブランドガイドラインは2025年度に公開が予定されています。

(2) 図書雑誌刊行、電子情報発信事業

① 出版物刊行

本年度は次の書籍の発行を行いました。

〈新刊〉2024年4月30日『ローバースカウトハンドブック2024』（電子版）

2024年5月22日『日本連盟規程集』令和6年版

2025年2月26日『ローバースカウト隊リーダーハンドブック』（電子版）

〈改訂〉2025年2月14日『進歩の手引き』改訂版2024

2025年2月26日『スカウトハンドブック・アドバンス』改訂版2024

〈増刷〉2024年5月27日『デンリーダーハンドブック』改訂版2015 4刷

2024年6月5日『スカウト進級手帳』改訂版2024 2刷

2024年6月6日『ボーイスカウト隊リーダーハンドブック』5刷

2024年7月19日『ボーイスカウト歌集』25刷

2024年8月4日『ローバースカウトハンドブック2024』2刷（電子版）

2025年2月6日『スカウト進級手帳』改訂版2024 3刷

2025年2月10日『カブスカウト歌集』55刷

2024年2月14日『ビーバーノート』38刷

2025年2月14日『ビーバースカウト歌集』30刷

2025年2月14日『りすの道』10刷

2025年2月14日『カブブック うさぎ』10刷

2025年2月14日『カブブック しか』10刷

2025年2月14日『カブブック くま』10刷

2025年2月14日『カブブック チャレンジ章』10刷

2025年2月14日『スカウトハンドブック・ベーシック』改訂版2024 2刷

3. 指導者養成事業（公3事業）

(1) 全国大会（全国スカウト教育会議含む）開催事業

日 時：5月25日（土）～26日（日）

場 所：秋田・あきた芸術劇場ミルハス ほか

テ ー マ：地域とともにあゆみ、社会課題の解決に貢献する、スカウティングを目指して

参加者:約700人

内容:開会式、表彰式、全国スカウト教育会議(テーマ集会)、スカウティングエキスポ(こども体験まつり)ほか

<全国スカウト教育会議(テーマ集会)>

今回、委員会横断型ワークショップとして3つ、RCJ 運営委員会として1つの計4つのテーマを設定しました。

- ①地域の中のスカウティング
- ②スカウティングと多様性
- ③スカウト・青年の参画
- ④変わりゆくローバー、高め合うローバー(RCJ 運営委員会)

(2) 新指導者養成体制の充実事業

①サポートツールの開発

- ・前年度開発、試行実施した e ラーニングを取り入れたボーイスカウト講習会方法を改修し、2 回目の試行を実施しました(兵庫、福岡、大阪、東京)。
- ・試行後のアンケート結果から更に改修し、更に今後 e ラーニングの導入が拡大することを念頭に構築しやすいシステムに変更して、令和 7 年度運用開始に向けて県コミッショナー会議、ディレクター研修会等で説明会を実施しました。
- ・前年度策定・改定発行した「スカウト運動の成人に関する方針」「指導者に関する指針」「指導者訓練体系」に基づき、スカウティングに関わる全ての成人を支援するための理解促進・活用資料として、以下を作成し発行しました。
 - 成人のライフサイクル導入ハンドブック
 - AIS ポリシー活用ツール運用ハンドブック
 - 隊指導者のジョブ・ディスクリプション
 - 隊指導者のための JOB ブック(ビーバーからローバー隊向け)
 - 隊指導者と団のアクションプランシート(ビーバーからローバー隊向け)

②検討課題の作業部会

- ・プログラム委員会との協同により、ローバー隊リーダーハンドブックの作成に参画し、リーダーハンドブックを基に定型外訓練「ローバーリーダーセミナー」を試行として以下により開催しました。

【目的】スカウティングの最終部門であるローバー部門について、参加者がローバーリーダーとしての責務を果たすことができるように、ローバー部門における活動の本質とスカウトへの具体的な支援方法やアプローチを知ることにより、リーダーとして必要な基礎的スキルを習得する。

【日時】2024年7月14日(日) 10:00~17:00

【場所】京都テルサ

【運営スタッフ】AIS 委員会、プログラム委員会

【参加者】近畿ブロック内のコミッショナー、ローバー隊指導者 計35名

- ・ボーイ隊、ベンチャー隊のリーダーハンドブックについて、プログラム委員会との協同によりタスクチームを編成し改定作業を行い年度内完成を目標としましたが達成できませんでした。

2025年度中に完成・発行するよう引き続き取り組むことを確認しました。

③AIS 関連施策の周知

スカウトへよりよいプログラムを提供するよう、スカウト運動に関わる全ての成人がやりがいをもって取り組むための体系的取り組みである AIS 方針を理解し、隊長が活動しやすくなるよう団に

おける体制の見直しのため、AIS 方針における「成人のライフサイクル」導入の説明、セミナーを計7回実施しました。

(3) 県連盟開設指導者養成事業支援

スカウトの自己の成長に向けたプログラムの提供と充実した隊、団等の運営方法を習得するために成人指導者の研修を以下の通り実施しました。

ボーイスカウト講習会 (205 回、3057 人)

ウッドバッジ研修所スカウトコース (31 コース、603 人)

ウッドバッジ研修所課程別研修 (141 回、1021 人)

ウッドバッジ研修所スカウトコース+課程別研修(一括開設型)(1コース、9人)

団委員研修所 (10 コース、173 人)

コミッショナーベーシックトレーニング (4コース、40 人)

コミッショナー任務別研修 地区コミッショナー課程 (4 コース、40 人)

コミッショナー任務別研修 県コミッショナー課程(1コース、15 人)

(4) 県連盟指導者養成資金補助事業

県連盟開設訓練コースのうち、複数日程での宿泊を伴うコースに対して、県連盟による円滑な運意を促進するために、開設補助金を支給しています。

ウッドバッジ研修所スカウトコース(35コース)

団委員研修所(11コース)

コミッショナーベーシックトレーニング(4コース)

(5) 日本連盟指導者訓練事業

ウッドバッジ実修所 (6コース、126人)

団員実修所 (2コース、41人)

ウッドクラフトコース (2コース、22人)

コミッショナー任務別研修 県コミッショナー課程 (1コース、15人)

(6) 日本連盟トレーナー養成事業

副リーダートレーナーコース (1コース、28人)

リーダートレーナーコース (1コース、19人)

(7) トレーニングチーム育成事業

① 県連盟ディレクター研修会の開催

県連盟ディレクターの能力向上、情報共有、各種訓練コースの評価・分析の報告のほか、「課題研究」等支援の手引きの課題と改定に向けた研究、ブロック内のトレーナー研修の進め方の研究の2つのテーマの研究、ボーイスカウト講習会の e ラーニング導入の進め方の説明を行いました。

日 時:2024年12月7日(土)13:15~12月8日(日)12:00

場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者:県連盟ディレクターおよび代理 45人

② トレーナー研究集会

「成人へのトレーニングの効果を高める」ための課題研究などの支援の進め方、「安定した継続性のあるトレーニングの提供」のために地域ごとのトレーナー育成に係る課題解決をテーマに研究を

おこないません。

日程：2025年2月1日（土）～24日（月）

場所：6ブロック、11会場

③トレーナー再任用制度

加盟員の登録数の減少に比例し、トレーナーの人数も毎年約20人の減少が続いていることから、任期を終え退任したトレーナーにこれまでの経験やノウハウを発揮し、後進のトレーナー育成、指導者訓練へ活躍いただくことを目的に導入しました。11県連盟から17人の申請があり、令和6年4月1日～令和7年3月31日の1年任期新で再任用（再委嘱）しました。

4. 国際相互理解、国際協力事業（公4事業）

(1) 海外ナショナルジャンボリー等派遣事業

2024年7～8月 イギリス・エセックス国際ジャンボリー派遣

スカウト8人、指導者2人参加

2024年8月 第16回台湾ナショナルローバームート

ローバースカウト5人参加

2025年 台湾・高雄 ナショナルローバーカンファレンス

ローバースカウト2人参加

(2) 日韓スカウト交歓事業

韓日スカウトフォーラム派遣（韓国スカウト連盟招待計画）

ベンチャースカウト16人、指導者1人

2025年1月 日韓スカウト交歓計画を実施

SAJ ベンチャースカウト 47人参加

SAJ フォーラムスタッフ 14人参加

(3) スカウト海外派遣事業

富士特別海外派遣 1人（（一社）霞会館様支援）

カンダーシュテークスカウトセンタースタッフ派遣 2人参加

(4) APR サミット派遣事業

2024年4月 第11回 APR スカウトリーダーサミット（タイ：バンコク）に日本代表団として出席

(5) 世界スカウト会議派遣事業

2024年8月 第43回世界スカウト会議（エジプト：カイロ）に日本代表団として出席

ローバースカウト3人をユースフォーラム参加者として派遣（（一社）霞会館様支援）

(6) APR ワークショップ開催支援事業

2024年11月 APR ワークショップ（AIS）を福岡県連盟の協力のもと博多にて開催

SAJ 参加者 10人

(7) CJK 事務局長会議開催事業

11月14日（木）日本、台湾、韓国の各国連盟事務局長によるオンライン会議を開催。今後の国際交流事業や事務局間の迅速な情報共有のための連絡通信などについて意見交換を行いました。

(8) JOTA-JOTI2024 展開事業

事前説明会の実施JOTA-JOTI2024の実施

<【実施概要】

日時:2024年10月18日(金)00:00~20日(日)24:00 72時間(各国の標準時間で実施)

JOTA 協力:一般社団法人日本アマチュア無線連盟
一般財団法人日本アマチュア無線振興協会
アイコム株式会社、CQ 出版株式会社、
日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ

【オンライン説明会の開催】

- 第1回 6月2日
- 第2回 7月17日
- 第3回 9月11日
- 第4回 10月14日
- 第5回 10月29日(事後振り返り)

【参加申し込み状況】

24 県連盟 119 件(両方 32 件/JOTA35 件/JOTI64 件)から、スカウト 1,884 人、指導者 770 人の計 2,654 人
(昨年度 23 県連盟 128 件から、スカウト 1,936 人、指導者 727 人の計 2,663 人)

【活動報告】

18 県連盟から 85 件(両方 16 件/JOTA33 件/JOT37 件)、スカウト 1,319 人、指導者 768 人の計 2,087 人

【今後の取り組み予定】

- ① 全団調査で各団での取り組み実施と非実施隊の理由の収集
- ② 国内向け NJOTA-NJOTI の開催(内輪の盛り上がりにならないもの)
- ③ 19NSJ(2026 年夏)とのコラボレーション(イベントとプロモーション)

【JOTA-JOTI2025 に向けた取り組みについて】

第1回説明会(オンライン)開催

日時:2月26日(水)19:30~20:30

参加者:JOTAJOTIに興味のある人、ないけど気になる人などどなたでも参加可能

内容:・タスクチームの役割

- ・JOTA-JOTIとは
- ・年間の流れ(モデルスケジュール)
- ・JOTA-JOTIを年間プログラムに組み込む
- ・プログラム例、ヒント
- ・などなど、本番2025年10月17(金)~19(日)における準備

世界的なイベントであり、最大規模の参加者を誇る本事業ですが、まだまだ語学や機器取り扱いなどのハードルが高いことが理由となり、浸透度が各県によって差があるという実情です。全国の進歩・進級に関する委員長会合を実施した際や全団調査でも明らかにされた、JOTA-JOTIへの参加に対するご意見をもとに、これまで参加していなかった隊・団への働きかけ、誰でも取り組める方法についてオンラインでの説明会などを昨年実施した結果、参加隊は増加してきています。次年度も引き続き説明会やプロモーションなどを積極的に実施することとします。

(9) その他国際相互理解、国際協力事業

①第13回日本アグーナリーへのNSO参加

香港8人、マレーシア15人、バングラデシュ5人

②日本ローバームート2024へのNSO参加

香港3人、韓国2人、マレーシア11人、台湾11人

③韓国連盟国際有功章の受章

5月25日(土)全国大会において、これまでの日韓国際交流と25WSJ参加に対する功績により、出田行徳専務理事へ無窮花銅章が贈呈されました。

④台湾連盟国際有功章の受章

7月11日(木)第11回台湾ジャンボリーレセプションにおいて、これまでの両国の国際親善推進の功績により、以下の方々に台湾連盟有功章が贈呈されました。

緑玉国花榮譽章	中野まり	日本連盟相談役、元世界スカウト委員
緑玉雄獅榮譽章	松平頼昌	国際コミッショナー、APR ソーシャルインパクト小委員長
	嶋田 寛	日本連盟相談役、APR スカウト委員会委員
国際友誼章	出田行徳	専務理事、APR ガバナンス小委委員会委員
	大久保秀人	事務局長、APR 教育手法小委員会委員
	真山明夫	東京連盟理事長
	楡原 仁	東京連盟国際委員長
	葉袋豊夫	神奈川連盟参与

⑤スウェーデン連盟国際有功章の受章

10月吉日、中野まり相談役が、スウェーデンのスカウト運動発展に対する顕著な功績によりグスタフ・アドルフス章が贈呈されました。

2 収益事業として

日本連盟の財政基盤を支える収益事業としては、不動産賃貸、業務受託事業があります。

不動産賃貸では、①後楽園 SAJ ビル(文京区本郷 1-34-3)の一部を収益事業としても活用、②JLB グランエクリュ杉並(杉並区下井草 4-278・スカウト会館隣地)も第三者に賃貸し、計7,400万円の賃貸収入を得ています。出来る限り永く使用できるよう、必要な営繕・メンテナンスも施し、益を生む大切な資産として活用・維持しています。

また、業務受託事業では、(一財)ボーイスカウトエンタープライズの事務受託を行うとともに、ロイヤリティ収入も含め約6,100万円の受託業務収入を獲得しています。その他、高萩 SF を活用し、公・民・学の各機関から多様な研修事業も受託しています。

いずれも受取会費の減少を補完する貴重な収益財源として、今後とも積極的に取り組んでいきます。

3 登録事業として

加盟登録システムのセキュリティを強化し、安定稼働させました。

4 管理事業として

公益事業を支える日本連盟管理事業としては、主に事務局運営業務があります。事務局運営は、出田専務理事が担当し、通常業務は、大久保事務局長、吉村次長が担当し展開してきました。事務局業務は、日本連盟全体の事務局として、公益事業関連の事務や収益事業の管理があります。

V 各種会議の開催報告

(1) 評議員会

第1回(定時) 5月24日(金) 15:00~17:20 秋田・メトロポリタンホテル秋田

臨時評議員会 3月8日(土) 14:00~17:00 スカウト会館ならびにWEB

以上のように評議員会を開催し、日本のボーイスカウト運動の発展の為に、定款に定められた重要事項の審議・決定をいただきました。

(2) 理事会

第1回定時 5月9日(木) 19:00~21:00 WEB

第2回臨時 5月25日(土) 11:45~12:15 あきた芸術劇場ミルハス

第3回定時 10月5日(土) 13:45~16:35 東京・明治記念館

第4回臨時 1月11日(土) 14:00~17:15 国立オリンピック記念青少年総合センターならびにWEB

第5回定時 3月8日(土) 10:00~13:00 スカウト会館ならびにWEB

以上のように理事会を開催し、日本連盟の状況を理事、監事が理解、共有すると共に、重要事項の審議・決定を行いました。

(3) スカウト教育推進本部会合

第1回 4月5日(土)~4月6日(日)

第2回 9月6日(土)~9月7日(日)

第3回 11月9日(土)~11月10日(日)

第4回 2月8日(土)~2月9日(日)

(4) 常設委員会

① 総務委員会

第1回 4月30日、第2回 5月28日、第3回 6月25日、第4回 7月30日、第5回 8月21日、

第6回 9月19日、第7回 10月29日、第8回 11月26日、第9回 12月19日、第10回 1月

28日、第11回 2月17日、第12回 3月25日

計12回をオンライン会議で開催し、各常設委員会の取り組みの確認、調整を行いました。

② 財務委員会

第1回 4月24日(水) 19:30-21:00(オンライン)

臨時勉強会 6月26日(水) 19:30-21:00(オンライン)

第2回 9月14日(土) 19:30-21:00(オンライン)

第3回 12月17日(火) 14:00-16:50(東京・スカウト会館)

第4回 2月12日(水) 19:30-21:00(オンライン)

計4回の委員会を開催し、日本連盟の財政状況の検討並びに決算報告書・予算書案の作成・承認を行い、理事会に上程しました。

③ 共済委員会

第1回 4月21日(日) 13:00-16:00(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)

第2回 6月18日(火) 20:00-21:50(オンライン)

第3回 10月7日(火) 20:00-21:45(オンライン)

臨時 10月31日(木) 20:30-20:50(オンライン)

第4回 2月9日(日) 13:20-15:45(東京・日本連盟スカウト会館)

以上臨時を含め5回の委員会を開催し、年度事業への取り組みを行いました。共済事業報告、決算の作成・承認、事業計画および予算の作成・承認、安全促進フォーラムをはじめとする安全普及啓発活動の実施、過去のスカウティング誌「安心・安全講座」連載記事の合本版作成、手引きの作成、文部科学省への報告等を行いました。

また、より良い共済事業を運営するため、委託業者を今年度から変更しました。

(事業については当該欄参照)

④広報委員会

毎月第2木曜を基本に委員会を開催し、広報施策の各種議論を実施しました。(オンライン12回、対面3回)対面の会議ではその都度テーマを設定の上でブレインストーミングを実施し、訴求相手に応じた広報の訴求メッセージの議論を重ねました。結果として、普及資料における「育てよう生きる力と活きる力」などのキャッチコピーや、そのほか訴求骨子を作成することができました。

また、広報委員会として主催する常設委員会横串の広報連絡会をオンラインで原則毎月開催し、各委員会からの広報的ニーズのヒアリングや広報観点での情報交換を実施しました。

24年度に広報委員会として取り組んだ主な施策は下記の通りです。広報活動を質・量・速度の3つの柱に分類し、各種取り組みを実施しました。重点事業などの報告については、該当箇所をご参照ください。

<広報の質>

- ・リブランディングの推進:タグラインの策定、ブランドガイドラインの改訂
- ・普及資料の刷新:団体案内、保護者向けリーフレット、ポスターの刷新
- ・新たな広報誌COMPASSの立ち上げ
- ・アニュアルレポートの発行:ファンドレイジング委員会と共同で7年ぶりに発行
- ・指導者リクルーティングのための広報的アプローチの検討

<広報の量>

- ・SNSにおける継続的な情報発信、25年度に向けInstagramの運用の見直し検討
- ・広報連絡会の運営、日本連盟組織横断での広報活動の推進
- ・ドリームチームの在り方の再検討
- ・プログラム委員会と連携してのポケモン&ボーイスカウトコラボ企画の検討
- ・写真コンテストの運営
- ・大阪連盟と連携をしてのモンベルクラブ・フレンドフェアへの出展

<広報の速度>

- ・ボーイスカウトのアプリの開発着手、25年度のリリースに向けた準備
- ・上記に伴うマイページの機能改修

⑤組織拡充委員会

- ・毎月一回委員会を行い、4月、7月、3月は対面にて、その他の月はオンラインにて実施しました。
- ・全国組織拡充担当委員長会合を7月にオンラインにて、10月に対面にて開催いたしました。

⑥ファンドレイジング委員会

- ・毎月第3水曜に開催(オンライン11回、対面1回)し、個人連携、法人連携、地域連携と役割を明確にして、担当事業について協議を行いました(各事業については当該欄参照)。また委員そのものの知見を深めていくため、相互に勉強会などを開催しました。
- ・県連盟への支援を行うために、群馬県連盟への法人会員獲得のための相談対応(3/24 オンライン)、団・地区・県連盟で活用できる助成金情報の発信(<https://www.scout.or.jp/member/joseikin-matome>)、及びその使い方を含めた「助成金活用セミナー」(3/7 オンライン)を実施し、参加者からは高い評価を得ました。今後は、地域連携を中心に、地域でどのように進めていく

かの観点での情報提供に努めていきます。

- ・地域連携として「ぼうさい国体(24/10/19 熊本)」などを実施しました。
- ・プログラム委員会、広報委員会と連携して「ポケモン活用プログラム」についての県連盟向けオンライン説明会を2/27 および3/9 の2回実施して、数多くの参加者を集めました。
- ・例年、ユニクロ×ボーイスカウトで実施してきた「難民衣料回収プロジェクト」については春期間(3月~5月)秋期間(9~11月)で実施。

https://www.scout.or.jp/member/support_for_refugees/

- ・全国大会においては、さらに連携を進めるために国連 UNHCR 協会と「連携協定」を結びました。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000051.000059766.html>

- ・法人連携ではアグーナリー(13NA)で協賛いただいた企業・団体との連携を進めていくと共に、2026年に開催予定の19NSJに向けて、支援企業様の協賛を進めていくために「ジャンボリー協賛メニュー」についても検討を行いました。

- ・広報委員会と連携してお預かりした寄付の使い道を報告する「アニュアルレポート」を発行すると共に、支援企業に対して定期的に訪問していくことで、連携が深まる取組を進めていきます。

アニュアルレポート:https://www.scout.or.jp/wp-content/uploads/2024/12/annualreport2023-2024_1.pdf

- ・災害対応として、実施した「台湾募金」については、335万円を地震復興の支援金として台湾連盟にお届けしました。

https://www.scout.or.jp/member/2024taiwan_hualien_earthquake_donations

- ・「能登半島地震」に関しては、【見舞金】6,230,213円【支援金】6,917,682円(2025.3.17現在)をお送りしました。

https://www.scout.or.jp/member/r6notohantou-jishin-support-donation_report

- ・寄付額の実績

維持会員からの寄付 8,908,000円(目標額2,050万円)

※日本連盟全体では62,854,000円(目標額57,500,000円)

一般寄付 3,710,839円

クラウドファンディング 4,051,000円

指定寄付 5,324,644円

もったいない寄付 257,192円(換金分)

※日本連盟で集めている寄付額は約2,270万円(遺贈寄付、災害募金を除く)

⑦プログラム委員会

毎月定例で委員会を開催(対面2回、オンライン10回)し、各施策や担当事業等について協議を行いました(各施策・事業については当該欄参照)。

- ・2024年度全国進歩・進級に関する担当委員長会合

初めての試みとして、2回開催しました。

日時:(第1回)2024年10月5日(土)18:00~20:30

(第2回)2025年2月12日(水)19:00~21:00

開催方法:オンライン

対象者:進歩・進級に関する担当委員会(プログラム委員会、進歩委員会、スカウト委員会など)の委員長またはその代理者 各県連盟2人まで

参加人数:(第1回)35県連盟55人、(第2回)39県連盟61人

内容:日本連盟事業の紹介、各県連盟での取り組み等意見交換(アフターフォーラムの実施、JOTA-JOTI2025に向けて)など

・新チャレンジ章

2023年度からの9種類に加えて、「名勝博士」を新設し、計10種類で実施しました。

<新設>「名勝博士」

協力団体：公益財団法人 岡田茂吉美術文化財団

バッジ・ワークブック作成枚数：2,500部

プログラムの概要：「名勝博士」では、「名勝」をきっかけにして、詳しく調べてみる、観察してみる、感じたことや想像を働かせ、形にして伝えてみることなどにチャレンジできるよう、ミッションを用意しました。ワークブックでは、子どもたちが活動のイメージを広げられるように工夫しました。

活動を通して、日本の自然の美しさや、芸術的な日本文化を知り、それを継承していく心を育むことを目標としています。

【実施一覧】

No.	名称	協力企業・団体	2024年度実績
1	フィールドマスター	ビクトリノックス・ジャパン株式会社 (2018年度から継続)	480枚/38隊
2	セーフティーエキスパート	リオテントジャパン株式会社 (2018年度から継続)	224枚/17隊
3	フォレストガーディアン	NPO法人FSCジャパン (2018年度から継続)	282枚/20隊
4	ピカッと探検隊	株式会社ミツウロコヴェッセル (2019年度から継続)	137枚/10隊
5	おなかエキスパート	株式会社ヤクルト本社 (2019年度から継続)	284枚/22隊
6	STEM博士	セールスフォース・ドットコム (2020年度から継続)	200枚/13隊
7	サイバーセキュリティヒーロー	パロアルトネットワークス株式会社 (2021年度から継続)	261枚/17隊
8	ハイウェイナビゲーター	東日本高速道路株式会社 (2022年度から継続)	165枚/13隊
9	LPガスの達人	岩谷産業株式会社 (2023年度から継続)	393枚/30隊
10	名勝博士	公益財団法人 岡田茂吉美術文化財団 (2024年度から開始)	508枚/43隊

○スカウトソング音源制作タスクチーム

タスクチーム会議を定期的に行い、新たな音源について協議し、音源制作チームで取り組みました。

① 新音源の制作

ウェブ配信による新音源の制作を継続中で、『光の路』『クイカイマニマニ』『マルマルマル』他、間もなく公開を予定しています。

② スカウトソングコンテストの実施(新規事業)

100周年記念ソングやスカウトソングにより親しみかけをつくり、スカウトソングへの熱意ある加盟員の活躍の場をつくるスカウトソングコンテストを実施しました。

期間：告知・募集開始9月、募集10～2月、審査発表3月、全国大会でお披露目予定

③ 今後の取り組み予定

全国調査で各隊でのソングの活用状況や歌わないのかの理由を収集しました。

AIS 委員会との共同事業として、スカウトソングセミナーを 3 月 21 日にオンラインにて実施しました。

○ポケモン&スカウト - コラボ企画について(広報委員会、ファンドレイジング委員会との共同事業)

① 経緯について

ポケモンのライセンス管理等を行う株式会社ポケモンでは、子どもたちへの教育支援活動を目的とし、行政とのタイアップによるポケモン公園の設置や子ども向けの知育動画配信などを行っており、近年では、日本サッカー協会(JFA)との連携により日本の次世代スポーツ選手の育成を促進するなど協会の PR 活動にも関わっています。

同社が掲げる“体験活動を通じて青少年の健全育成を目指す”という点については、ボーイスカウトとも親和性があるととらえることができると考え、日本連盟中長期計画(2023 年からの 10 年…)には、他団体、企業とのコラボレーションプログラムの開発が項目として明示されており、当連盟が地域や社会とのつながりを持つためのツールとして、キャラクターを活用した展開も検討するに値する事項であるととらえています。

② プログラムの活用方法について

- 団行事、地区行事、カブラリーなどの事業での、パッケージプログラムとしての運用(カブラリーのテーマなどへの採用等)を基本とする。
- ワクワク自然体験あそび事業など加盟員外が参加する事業においても展開できるものとする。

総勢 12 人のプログラム委員会では、20 歳代が 5 人、その他 30 歳~60 歳代の委員で構成されており、それぞれの年代の感性や特性、技能と知識を生かして委員会を運営しています。これまで培ってきた日本のボーイスカウトの運動の歴史を踏まえながら一方では目まぐるしいスピードで変化していく現代社会において何が重要で何を残していくのかがとても難しい中、日々検討・作業を重ねています。日本各地からスカウトが集まる事業(フォーラム、代表表敬、ワークショップなど)では、各地域の課題や悩みなどをスカウトから直接聞ける機会であり、そのようなスカウト一人ひとりの声に耳を傾け、将来のスカウティングのあるべき姿に向けて、プログラムや進歩進級について考え続けたいといけません。これらを踏まえ当委員会では検討・実施・評価・改善、それに向けたプログラム開発をしていきますので、各隊の指導者の皆様へは、引き続きご支援いただきたくお願い申し上げます。

⑧Adults in Scouting (AIS) 委員会

AIS 施策の推進のため、定例の会議を 10 回(9 回オンライン、1 回対面)、日本連盟ディレクターチームとの合同会議を 3 回(1 回オンライン、2 回対面)で開催しました。

また、指導者訓練の推進のため、日本連盟ディレクターチームは定例会議を 12 回(9 回オンライン、3 回対面)で開催しました。

(5) 特別委員会

①第 13 回日本アグーナリー実行委員会

高崎実行委員長(福島連盟副連盟長)他委員 13 人および福島連盟役員、福島県社会教育課職員が参席され、2024 年度としては、大会直前の第 10 回を 6 月 17 日に、報告評価としての第 11 回を 10 月 8 日の 2 回の実行委員会を開催、その他に、活動サービスセンター 2 回(6/8-9、7/5)、生活サービスセンター 3 回(4/15、5/14、6/29-30)、一般参加サービスセンター 4 回(4/2、5/17、6/10、7/6-7)、総合サービスセンター 4 回(5/7、6/1、6/28、7/26)、チャレンジ

ルーセンター3回(5/13、6/12、7/13)の各専門部会を開催して運営を進めました。(運営内容は該当欄を参照)

②第19回日本スカウトジャンボリー

<実行本部>

和田常務が担当し運営委員会を立ち上げ、毎月開催している専務・常務会での経過報告を受け、都度必要事項を検討、協議し、必要な事項は決定して、19NSJ野成功を目指してきました。

<運営委員会>

以下の理事会承認事項にて運営委員会を進めました。

名称: 第19回日本スカウトジャンボリー運営委員会

設置: 理事会のよとの特別委員会

任務:

- ・19NSJの準備、運営に必要な事項の審議と議決、ならびに具体的諸計画の推進に関すること
- ・各専門部会の準備と運営に関すること
- ・関係官庁・機関、開催県・市町、諸団体との連絡調整に関すること
- ・19NSJ特別予算の編成および決算に関すること
- ・その他、19NSJの準備に関する一切の事項

任期: 2026年度19NSJ会計の決算および報告書の作成まで

以下、運営委員会開催状況

- 2024年度は、6月16日に運営委員候補者打ち合わせを東京にて対面で開催し、基本構想の理解、そして顔合わせと信頼関係の構築を行いました。
- 7月17-18日に正副運営委員長にて広島県神石高原にて、現地視察及び現地の自治振興会での大会概要の説明会を実施しました。
- 8月24-25日に第1回運営委員会として広島県神石高原にて現地視察、そして副運営委員長所管別の分野(大まかな部署)分けを行いました。
- 10月21日にオンラインにて第2回運営委員会を行い、1月理事会承認予定の基本実施要領の確認、現況の報告、部署分けと所掌業務の確認、大会テーマの委員会内での募集を行いました。
- 12月18日にオンラインにて第3回運営委員会を行い、1月理事会承認予定の基本実施要領の最終確認、現況の報告、最終の部署分けと所掌業務の確認、大会テーマの神石高原町及び広報委員会への意見聴取状況確認を行いました。
- 2月18日にオンラインにて第4回運営委員会を行い、分野ごとの準備状況報告、各種調達・調整、希望隊数事前調査報告、大会テーマの運営委員内素案の確定等を行いました。

このほかにも、正副運営委員長打ち合わせ(全てオンライン)を11月13日、12月6日、2月14日に、さらに12月以降は副運営委員長所管別にて分野毎の会議を行っています。

③「スカウト用品経営会議」特別委員会

第1回会議 4月22日

第2回会議 5月21日

第3回会議 6月18日

第4回会議 7月19日

第5回会議 8月 資料のみ共有(世界スカウト会議のため)

- 第6回会議 9月20日
- 第7回会議 10月22日
- 第8回会議 11月22日
- 第9回会議 12月20日
- 第10回会議 1月23日
- 第11回会議 2月17日
- 第12回会議 3月8日

・毎月定例で委員会を開催（オンライン会議）し、ボーイスカウトエンタープライズの経営状況について協議を行い、決算報告書・予算書の作成・承認し、理事会・評議員会に提出を行いました。

④ダイバーシティ&インクルージョン特別委員会

- 第1回会議 6月12日
- 第2回会議 7月8日
- 第3回会議 8月19日
- 第4回会議 9月21日（対面）
- 第5回会議 10月7日
- 第6回会議 11月11日
- 第7回会議 12月9日
- 第8回会議 1月6日
- 第9回会議 1月27日
- 第10回会議 3月3日

- ・WEB会議を重ね、D&I宣言を作成し、理事会にて提言しました。作成に際し、10月13日の全国県コミ会議でアンケートを実施しました。
- ・11月24日～27日、台湾高雄において開催された APR ダイバーシティ&インクルージョンフォーラムに参加し、日本版提案書を作成しました。
- ・並行して、啓発セミナーを開催すべく、教材開発を進め、さらに、スカウト向けにプログラムに活用できる教材開発を進めました。
- ・2025年4月1日より委員会の名称がダイバーシティ&インクルージョン（略称 D&I）特別委員会から、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（略称 DEI）特別委員会と変更することが決まりました。

⑤第3期中長期計画施策評価特別委員会

2023年度の事業について重点事業点検シートを使用し評価を実施いたしました。それらを基に事業計画に反映させました。

⑥第26回世界スカウトジャンボリー派遣準備特別委員会

2027年ポーランドで開催される第26回世界スカウトジャンボリーへの派遣準備をする準備委員会を立ち上げるべく、派遣団長を村田総コミ、副派遣団長を松平国際コミッショナーに務めていただくこと、2025年度には実行委員会を立ち上げることを理事会で決定しました。

⑦那須野営場検討特別委員会

那須野営場の今後の活用と、築後50年を過ぎた本館をどうするか検討する特別委員会を立ち上げ、理事会で諸事情を検討し、本館の解体を重要な財産処分になるため、提案しましたが、建替えありきの議論のように感じ、検討資料が少ないとのこと指摘があり否決されましたが、理事会としては現所の危険度を鑑み、本館の使用は停止していますので、今後、現場見学会を実施し、更なる資料を集めます。

- 第1回 10月18日(金) 19:30~21:30 WEB
- 第2回 11月25日(月) 19:30~21:00 WEB
- 第3回 12月27日(金) 19:30~21:30 WEB
- 第4回 2月26日(水) 19:30~21:30 WEB

(6) 危機管理委員会

水戸守委員長代理を中心に委員会を展開いたしました。

- 第1回 5月26日(日) 8:00~9:00 秋田・ANAクラウンプラザホテル
- 第2回 12月2日(月) 19:30~21:30 WEB
- 第3回 1月20日(月) 19:30~21:30 WEB
- 第4回 2月27日(木) 19:30~21:30 WEB

(7) 信仰奨励小委員会

「宗教関係者の会」のオンラインによる意見交換会を定例化し、年間4回開催することができました。回を重ねるごとに参加者が増えています。(現在、15教宗派、会員61人)

宗教関係者の会の活用とともに、各部門の信仰奨励や指導者への支援について、検討を重ね、次年度から信仰奨励章の見直しや取得への支援の具体策を検討・実施していくこととしています。

- ・信仰奨励章取得課目の内容の改定検討継続中
 - ・「信仰奨励章取得のための手引き(スカウト向けハンドブック)」の原案を作成、検討中
- 第13回日本アグーナリー大会で場内プログラムとして、「信仰奨励」ブースを出展しました。

(8) 全国ローバースカウト会議(RCJ) 運営委員会

運営委員9人

運営委員会開催12回

全国のローバースカウトおよび同年代指導者を構成員とする組織とし、各県ごとに県連盟代表者を選出し、ブロックごとに代表者を選出している。現在、46都道府県より選出されました。RCJを管理・運営するために運営委員会を置き、ブロック代表、選挙枠委員、留任枠委員の今年度は9人で運営を実施した。運営委員会では、ローバーリングの促進についての施策などを議論しました。

2024年度の重点目標と施策

- 重点目標:隊、地区、県単位において活動するスカウトの活性化および、同年代のスカウト以外を巻き込んだ活動の推進をする。
- 施策 ~正しい活動への理解と強固なネットワークの構築~
 - 県連盟代表者が県内のスカウトの代表として何をすべきか理解する。
 - ローバースカウトのプログラムについて、正しく理解するためにローバースカウトスタートセミナーを全県で1回以上実施します。
 - 県連盟代表者を集めた勉強会を開催します。
 - 一人でも多くのローバースカウトを活動へ参画させる。
 - 今ある各種SNSやRCJWeb、ROVERPORTを活用し、ローバースカウト向けの広報を週1回以上します。
 - ローバースカウトが行っている活動が見える化し、他のローバースカウトへ拡散して活動への参加や企画を推進します。

毎年、運営体制が変わっていく組織でありながら、なんとか自分たちでこの運動を広めたいという思いがRJCを支えています。ここ数年では、日本連盟のコミッショナーとの対話の回数も増えることで、RCJ、全国のローバースカウトの声を日本連盟事業に生かすことができています。本年実施され

た「日本ローバームート 2024」はまさに RCJ がローバースカウトの声を集め実行に導いたすばらしい事例でした。その他にも、災害支援の現場においても RCJ から呼びかけ、仲間を集めるなど、発信を強化しています。引き続きローバースカウトの社会に向けてのアクションの発信拠点とします。

(9) 全国県コミッショナー会議

第1回 5月25日(土)

第2回 10月13日(日)～10月14日(月)

第3回 1月18日(土)～1月19日(日)

各回において、教育規程改定に関する協議、各常設委員会報告ならびに必要なテーマについて協議を行った。

また、第3回においては新任期の委嘱を行った。

(10) 新年賀詞交歓会

2025年新年賀詞交換会を以下のように開催し、ボーイスカウト関係者、ご支援を賜っている皆様80名のご参加で賀詞交換会を致しました。

2025年1月25日(土) 17:00～19:00 東京・明治記念館

(11) 宗教関係代表者会議

第1回 5月25日(土)

各教宗派代表から現状報告、意見交換等が行われた。

(12) 名誉会議

第1回会議(9月1日)は台風の影響により急遽オンライン会議で行い、2025(令和7)年度表彰の審査基準を協議し、第2回会議(3月22日)において審査を行いました。表彰者については、「2025(令和7)年度表彰者名簿」参照

(13) 県連盟代表者会議

日本連盟の施策を日本全国で展開していただいている各県連の代表者各位に、日本連盟の施策、現状を説明すると共に、各地域からの要望を聞いて、更なる日本のボーイスカウト運動を推進するために以下のように開催しました。

第1回 5月25日(金) 16:00～18:00 秋田・ANAクラウンプラザホテル

第2回 1月25日(土) 13:30～16:30 明治記念館

VI 参考(規程等改正一覧)

【教育規程】

承認日:2025年2月28日、3月8日 施行日:2025年4月1日

承認機関:教育推進本部会合、理事会

第7章 教育の方法

本則

7-9 海外派遣

7-11 外国スカウト受入計画(新設)

施行細則

7-8-4 申請承認

7-8-6 確定計画の報告

【定款】

承認日:2024年5月9日理事会、5月24日評議員会

第8条 基本財産

承認日:2025年1月11日、3月8日 承認機関:理事会、評議員会

第1条 名称

VII ボーイスカウトエンタープライズ事業報告

1. 在庫の適正化、効率化

前年度に引き続き、各商品は適正在庫数量に調整を進めました。各商品の発注ロット数の見直しや受注販売などの展開を行い、倉庫の管理料などの固定費の削減を行いました。

2. 直営店売上

スカウトショップ東京御茶ノ水は、移転後の売上が好調で前年比145%と上昇しました。

3. 新商品開発

ボーイスカウト部門以上のスカウト・指導者向けに夏季活動用ポロシャツを制作し販売を開始したほか、4月に新商品としてワッペンを3種類(桜・富士山・鏡)発売しました。

例年好評の福袋については今年度も冬季限定販売の要素としてトートバッグと限定ワッペンを作成し付加価値を高め、さらにボーイスカウトロゴ入りモンベルサーモボトルも付けて販売したところ、用意した200セットがほぼ販売開始日には完売となりました。

4. 資金繰り

上記夏季活動用ポロシャツ2024年度仕入40,000着(6月20,000着、11月20,000着)の仕入代金支払のため、日本連盟より短期借入金として5,000万円の借入を行いました。

金銭消費貸借契約書を取り交わし、2025年度中に分割返済を行うこととしました。

5. その他

用品の販売の意味、意義を再確認し、適正な価格の設定を行い、都道府県連盟との関係、協力会社との関係を見直し、よりスカウト運動に貢献できる事業展開を今後も継続していきます。

